

埼玉県指定出資法人あり方検討委員会事前ヒアリング
Aグループ（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 議事概要

1 開催日時 令和6年10月1日（火）16時01分～16時30分

2 開催方法 オンライン会議

3 出席者

（1）委員 伊藤（伸）委員、栗田委員、林委員

（2）県 ・事務局 行政・デジタル改革課 秋穂主幹、新井主査
・法人所管課 文化財・博物館課 末木主幹、入戸野主幹

（3）法人（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 須藤常務理事、福島企画課長

4 ヒアリング内容

（委員）

匠の技がある世界だと思っているが、人材について、どの程度希望通りの採用ができていますか。

（法人）

ここ数年は毎年採用を行っており、年によって1人から多くて3人程度の採用となっている。倍率は10倍まではいかないが、5倍、6倍程度となっており、一定程度の知識を持った者を採用できていると考えています。

（委員）

年間を通しての業務の繁忙度はどのような感じか。

（法人）

発掘は年間を通してほぼ平均的に行っている。まずは県文化財・博物館課が事業者と調整を図り、例えば年度前半に10現場あり、後半には現場がないといったような偏りが生じないように、現場数を均等に配分している。また、年間を通して発掘を行う現場もあれば、最初の3か月で終わる現場、年度後半の半年分しかない現場もあり、それらを含めて年間の事業量がほぼ同じになるよう調整している。

（委員）

職員を計画的に育成しやすい環境にもあるということか。

（法人）

そのように考えている。現場では、若手の職員とベテランの職員を組み合わせ配置し、OJTのような形で、知識や技能を伝承しながら職員の育成を図っている。

（委員）

応募数も多いということで安心した。キャリア採用ではなく新卒で入ることが多いか。

（法人）

例えば事業団で臨時的職員として働いていた者や、他県で発掘事業を行っている団体から転職という者もいるが、基本的には新卒で採用している。

（委員）

業務の効率化の観点から、例えば発掘は手作業だけで行われるのか。地上からの撮影や電波を利用してということがあるのか。効率化や機械化、IT化を行っているものはあるか。

(法人)

例えば測量について、以前は杭を打ち、三角測量で測定する作業を全て手作業で行っていたが、現在はレーザー測量などのシステムを導入している。発掘現場における住居跡や井戸の跡などの遺構がある場合は、その位置を示す平面図も以前は手作業で作成していたが、現在は測量システムの導入により作業の効率化が図られている。ドローンでの空中撮影も行っている。

(委員)

作業の効率化について、計画を立てて毎年きちんと評価をするということを行っているか。

(法人)

そういったものは特に行っていない。

(委員)

技術も向上しているためあまり問題はないと思うが、例えば効率化の観点で、目標をきちんと定めて進めていくということが組織の活性化や技術の継承にも繋がると思う。

(委員)

発掘調査事業の収益は、どこから出るものなのか。

(法人)

例えば道路を造る現場で発掘が必要になる場合は、その道路を造っているのが国であれば国土交通省、県であれば県土整備事務所と契約して、という形になる。

(委員)

大部分が国や県からの支出で成り立っているということで、事前資料の県の財政負担の状況と必要性の部分には、県の財政負担はないとあったが、これはどういう意味か。

(法人)

いわゆる補助金はもらっていないということである。発掘調査の元になった事業者がたまたま県であったため、県からその事業費を受け取っており、それが国であれば国になり、高速道路であればNEXCOからとなる。

(委員)

基本的になくはない事業だと理解しているが、発信の少なさを感じている。埼玉県内の学校に対する発信目標は40件であり、市町村への発信がない。学校や地域が多く存在する中で、リアルでなくてもオンラインで様々な発信を行えるため、目標設定のしかたを変えてほしいと思う。

(法人)

古代から教室へのメッセージ事業は、主に土器などを使用し、歴史の教科書の始めのほうにある旧石器時代や縄文・弥生時代といった時代をメインに出前授業を行うものである。歴史の授業は通常、6年生の1学期から始まるため、学校からの希望も6、7月に集中することが多い。そのため、約2か月に依頼が集中し、週のうち半分以上の4日間で対応を行うため、40校ほどが限界と考えている。希望のあった学校全てで出前授業を行えるわけではないが、時代ごとの土器などをセットした学習用キットを貸し出して、授業に活用してもらっているケースもある。

(法人所管課)

この事業は、当課が事業団に委託して実施しているものである。40校の選定は事業団ではなく県教育委員会が行っており、古代から教室へのメッセージ事業の指導委員会で教員などを交えて決定している。しかしながら、希望のあった全ての学校に行き渡らない可能性があり、各教育事務所を通じて地域のバランスを考慮するようにしている。それが難しい場合は、貸出キットを利用してもらうことや、あるいは大宮にある県立歴史と民俗の博物館にキットを複数用意して県内の学校に利用してもらうなど、少しでも希望に沿った対応をできるようにしているところである。

(委員)

職員 45 人のうち、管理部門に県からの派遣職員が 3 人というのはい多いと感じたが、そのようなことはないか。

(法人所管課)

現場の数について、例えば年間で約 20 の現場を切り盛りしながら進めていくが、熊谷の本部でプレハブの建設や事務用消耗品の購入、職員の給与などの管理事務を一極集中で行っている。人事制度や服務規程は県に準じているところがあり、県からの派遣職員 3 人は県の制度を熟知している、また県との調整役になれるということで管理部門に配置している。そのため現場には管理部門の職員がいるわけではなく、専門職員のみが配置されている。

(委員)

埋蔵文化財だけでなく歴史的なものを施設も含めてどのように保存するかということはこの自治体でも大きな課題となっており、デジタルとの親和性が高い分野だと思っている。例えば、地中の埋蔵文化財にスキャンをかけるようなイメージで 3D 化することで、これまでは掘るときにベテランの技術を用いて傷がつかないように慎重に扱い、さらにその保存をどうしていくかとしていたところを、ある程度の情報が分かる状態で負担なく掘り出すことができるようになってきている。ベテラン職員の退職により技術の継承が難しい中で、このようなデジタルの活用は課題解決に貢献できるのではないかと思う。

保存活用事業については、全て県費負担で行われていると思うが、コストをかけることが悪いわけではなく、そのコストの見返りとして県民にどのような利益がもたらされるかが重要と考える。伝統文化財や埋蔵文化財は、この部分の可視化が難しいと感じており、その意味で現在のアウトカムは、文化財に触れる機会を増やすとなっていると思われるが、埼玉県文化財の魅力をもっと少し可視化できれば、その指標ももう少し変わってくると思うがどうか。

(法人所管課)

埋蔵文化財は毎年多く出土しており、保存処理を行って利用可能な状態にするために事業団に業務を委託している。その結果、資料は年間約 6,000 件近い利用があるが、これが埼玉県から出土した、またこんなに素晴らしいものだというアピールに繋がっているかということと難しいところがある。現状は博物館への貸出や、本の中で取り上げてもらう、また学校の教材として先生が写真を撮っていくなどで利用されているが、ネット社会で工夫をして、埼玉県の文化財の素晴らしさをアピールすることを考えていかなければならないと思っている。

(委員)

埼玉県文化財の特徴として、神奈川県や東京都と違う部分はあるか。千葉県ではチバニアンが出てから見られ方が大きく変わったと感じており、そのようなものがあるかという点。

(法人所管課)

埼玉県の特徴については難しいところではあるが、実は過去に海があり、県南部に貝塚が存在し、また県中部は戦国時代に城が多く、県北部は埼玉古墳群などの古墳が多く存在しているというように、国の指定史跡または特別史跡になるような、各時代の優れた遺跡があるといった特徴がある。これらを上手く発信していくことが重要と考えている。

(委員)

全てを観光的なものとして結び付ける必要はないが、埼玉県の文化財について、人を呼べるものとそうでないものを色分けすることは大切と思っている。その中で外向けにも人を呼べるようなものがあったときに、デジタルの活用がとてまじむのではないか。ただ、デジタルはあくまで手段であって、重要なのはストーリーを作れるかである。そのストーリーを可視化することにデジタル化は適したツールだと思う。そういったことがこの保存活用事業の中に入ってくると、より事業としての価値が高まると思う。

(法人所管課)

保存活用事業において、古い調査の写真や図面など、まだデジタル化されていないものも事業団に

委託を行い、毎年一定数のデジタル化を試みている。将来的には、委員指摘のとおり、デジタル化した資料と上手く組み合わせて発信することについて、県と事業団で考えていきたい。

(委員)

事業団は公益財団という民間団体としての位置付けであり、ある程度収益を考えなければならないところがあるが、この事業だけで収益を上げられるわけではないからこそ、収益とは違った面での事業の意義を見せていく必要がある。埼玉県にある文化財にはこれだけの魅力がある、だからこそこれだけの投資を行うというストーリーを作ることができればいいと思う。